

令和6年度 第2学年 理科 シラバス



1. 担当者 【片桐丈瑠】

2. 理科の目標

- ① 身近な自然や身のまわりの現象に進んで関わるができる。
- ② 疑問をもち、それを解決するという目的意識をもって観察・実験を行うことができる。
- ③ 科学的にものごとを考えて、それを説明できる能力を育てることができる。
- ④ 身近な自然や身のまわりの現象についてのきまりや規則に対する理解を深めることができる。

3. 評価の観点・評価の方法について

観点	観点の目標		評価の方法
知識及び技能 [知識・技能]	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な知識及び技能を身につけている。		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(結果等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験観察方法
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
思考力・判断力・表現力等 [思考・判断・表現]	自然の事物・現象から問題を理解し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(考察等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験の発表
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
学びに向かう力、人間性等 [主体的に学習に取り組む態度]	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・レポート ・授業の発言や態度 ・自己評価 ・ワーク
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	

○評価：上記3観点をA・B・Cの3段階で表す。

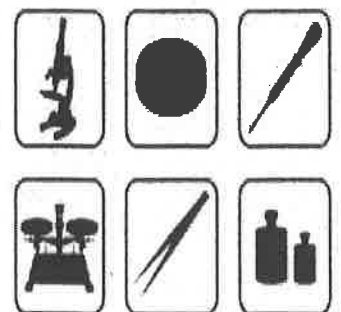
○評定：上記の観点別学習状況の評価をもとにして、1~5の5段階で表す。

4. 家庭学習のポイント

- ① 実験・観察や演示実験の前に内容を予習しておくとうい。
- ② 教科書を授業ノートやワークノート、レポート等を復習し、目的から考察までの内容を整理する。
- ③ 実験や観察を行ったときのレポート等は、その日のうちに書くようにするとよい。
- ④ 教科書の単元末の問題やワークの問題などできるだけ多くの問題を解き、授業及び実験の内容をより深める。

5. 使用教材

- ①教科書『新しい科学』東京書籍
- ②資料集『理科資料集』新学社
- ③ワーク『理科の自主学習』新学社
- ④確認テスト『観点別評価Wプリント』新学社



単元・教材（2年生の学習内容：140時間）

学期	単元	学習内容	学習活動
前期	化学変化と原子・分子	<p>第1章 物質のなり立ち</p> <p>第1節 ホットケーキの秘密</p> <p>第2節 水の分解</p> <p>第3節 物質をつくっているもの</p> <p>第4節 分子と化学式</p> <p>第5節 単体と化合物・物質の分類</p> <p>第2章 物質どうしの化学変化</p> <p>第1節 異なる物質の結びつき</p> <p>第2節 化学変化を化学式で表す</p> <p>第3章 酸素がかかわる化学変化</p> <p>第1節 物が燃える変化</p> <p>第2節 酸化物から酸素をとる化学変化</p> <p>第4章 化学変化と物質の質量</p> <p>第1節 化学変化と質量の変化</p> <p>第2節 物質と物質が結びつくときの物質の割合</p> <p>第5章 化学変化とその利用</p> <p>第1節 化学変化と熱</p>	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸水素ナトリウムを加熱すると、どのような変化が起こってホットケーキがやわらかくなるのか調べる。 水に電流を流すと、どのような変化が起こるのか調べる。 どのような物質も「小さな粒子」からできているのか考える。 分子は、原子がどのように結びついてできているのか考える。 化学式からわかることは何か考える。 物質と物質とが結びつく化学変化とは、どのような変化か調べる。 化学変化を化学式を使って表すには、どのような決まりがあるのか調べる。 物質が燃えるとき、どのような変化が起こっているか調べる。 金属の酸化物から酸素をとって、金属のみにするには、どうすればよいか調べる。 化学変化が起こる前と後では、物質全体の質量はどうか調べる。 2種類の物質が結びつくとき、それぞれの物質の質量にはどのような関係があるか調べる。 どのような化学変化でも、外部に熱を放出するか調べる。
	生物のからだのしくみはたらき	<p>第1章 生物と細胞</p> <p>第1節 水中の小さな生物</p> <p>第2節 植物の細胞</p> <p>第3節 動物の細胞</p> <p>第4節 生物のからだと細胞</p> <p>第2章 植物のからだのつくりとはたらき</p> <p>第1節 葉と光合成</p> <p>第2節 光合成に必要なもの</p> <p>第3節 植物と呼吸</p> <p>第4節 植物と水</p> <p>第5節 水の通り道</p> <p>第3章 動物のからだのつくりとはたらき</p> <p>第1節 消化のしくみ</p> <p>第2節 吸収のしくみ</p> <p>第3節 呼吸のはたらき</p> <p>第4節 血液のはたらき</p> <p>第5節 排出のしくみ</p> <p>第4章 刺激と反応</p> <p>第1節 刺激と反応</p> <p>第2節 神経のはたらき</p> <p>第3節 骨と筋肉のはたらき</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小さな生物はどのような外形や、大きさなのか調べる。 植物のからだにどのような特徴があるか、顕微鏡を使って調べる。 動物と植物の細胞には、どのような共通点と相違点があるか調べる。 単細胞生物と多細胞生物の細胞には、それぞれどのような特徴があるか考える。 光合成は葉の細胞の中のどこで行われているのか調べる。 光合成でデンプンがつくられるときに、何が材料になるのか調べる。 植物はいつ呼吸や光合成を行っているのか調べる。 植物の吸水は蒸散とどのように関係しているのか調べる。 茎や葉の水の通り道はどのようなつくりをしているのか調べる。 食物は、消化される過程で、どのように変化していくのか調べる。 消化された食物は、体内で、どのように吸収されていくのか考える。 細胞が養分からエネルギーをとり出すときに必要な酵素は、どのようにからだにとり入れられ、細胞に届けられるのか考える。 心臓がどのようにして血液を循環させているのか、血管にはどのような種類があるのか考える。 尿はどこで何からつくられるのか考える。 動物のからだに刺激を受けとっている器官は、どのようなものがあり、どのようなはたらきをするのか考える。 感覚器官で受けとられた刺激は、神経系のどこを伝わり、どのようにして反応を引き起こすのか調べる。 うでやあしが動くとき、骨や筋肉は、どのようなはたらきをするか調べる。
後期	天気とその変化	<p>第1章 気象の観測</p> <p>第1節 気象の観測</p> <p>第2節 大気圧と圧力</p> <p>第3節 気圧と風</p> <p>第4節 水蒸気の変化と湿度</p> <p>第2章 雲のでき方と前線</p> <p>第1節 雲のでき方</p> <p>第2節 気団と前線</p> <p>第3章 大気の動きと日本の天気</p> <p>第1節 大気の動きと天気の変化</p> <p>第2節 日本の天気と季節風</p> <p>第3節 日本の天気の特徴</p> <p>第4節 天気の変化の予測。</p> <p>第5節 気象現象がもたらすめぐみと災害</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気象要素と天気の変化には、どのような関係があるか調べる。 気圧とは、何か調べる。 気圧と風には、どのような関係があるのか考える。 水蒸気が水滴に変化するのがどのようなときか調べる。 雲ができるのはなぜか調べる。 前線の周辺ではどのようなことが起こるのか考える。 なぜ日本付近では西から東へ天気が変わるのか考える。 日本列島付近でよく季節風がふき、冬と夏で風向が変わるのはなぜか考える。 日本の四季に生じる特徴的な天気は、どのようにして生じるのか考える。 翌日の天気を予想するには、どのようにすればよいか調べる・気象現象によって、どのようなめぐみや災害がもたらされるのか考える。

後期	電気の世界	第1章 静電気と電流	<ul style="list-style-type: none"> • 静電気には、どのような性質があるのか調べる。 • 電流は、何が流れているものなのか考える。 • 放射線には、どのような性質があり、どのように利用されているか考える。 • 回路に電流が流れるためには、どのような条件が必要か考える。 • 直列回路と並列回路の各点を流れる電流の大きさは、どのようになるか調べる。 • 直列回路や並列回路の各区間に加わる電圧は、どのようになるか調べる。 • 回路に加える電圧と流れる電流の大きさには、どのような関係があるか調べる。 • 電流によって発生する熱の量は、どのような場合に大きくなるか調べる。 • コイルのまわりの磁界のようすは、どのようになっているか調べる。 • 磁界の中に入れたコイルに電流を流すと、コイルはどうなるか調べる。 • コイルと磁石で電流をつくり出すには、どのようにすればよいか調べる。 • 乾電池の電流とコンセントの電流は、どのようにちがうのか考える。
		第1節 静電気と放電	
		第2節 電流の正体	
		第3節 放射線の性質と利用	
		第2章 電流の性質	
		第1節 電気の利用	
		第2節 回路に流れる電流	
		第3節 回路に加わる電圧	
		第4節 電圧と電流と抵抗	
		第5節 電気エネルギー	
		第3章 電流と磁界	
		第1節 電流がつくる磁界	
		第2節 モーターのしくみ	
		第3節 発電機のしくみ	
		第4節 直流と交流	

【英語科】シラバス（2年）

1 担当者

岡本 加奈子

2 学習の目標

- ① 英語学習の基本を学び、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ② 学習した内容を使って、身近な事柄を表現することができる。
- ③ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- ④ 英語という言葉に興味を持ち、その使い方の基礎を理解し、運用することができる。
また、英語学習を通して、その背景にある文化を理解することができる。

3 評価の観点と方法

次の3つの観点についてそれぞれ3段階（A・B・C）で評価する。

評価の観点		方法
ア 知識・技能	○コミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	発言、課題に対する取り組み、定期テスト、パフォーマンステスト、小テスト等
イ 思考力・判断力・表現力	○具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。 ○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	定期テスト、授業中の表現活動、英作文、パフォーマンステスト、小テスト等
ウ 主体的に学習に取り組む態度	○他者を尊重し、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	授業中の態度、挙手・発言、パフォーマンステスト、提出物の状況等

4 学習のポイント

- ① Teacher's Talk や音源を繰り返し聞き、内容を推測しながら聞くことに慣れる。
- ② 新出単語やよく使う単語、表現を繰り返し発音したり使ったりし、繰り返し練習することによって定着を図る。
- ③ 新出文法についても、理解するだけでなく、それを使って自己表現する。
- ④ 習ったことを使ってやりとりをしたり、自分の気持ちや意見を発表したりする。

5 使用教材

- ・教科書 「Here We Go! ENGLISH COURSE」（光村図書）
- ・副教材 ノート、ワーク等、ファイル

6 年間の学習計画

学期	月	題材	主な学習内容	観点別評価具体例
	4	教科書 UNIT 1. Hajin's Diary 2. Basketball Tournament 3. Plans for the	Round 1 Unit 1~8 ・授業での約束 ・パフォーマンステスト（ステップアップ自己紹介） ・単語テスト	ウ 授業での約束を守って学習に取り組むことができる。 イ ステップアップ自己紹介をすることができる。
	5	Summer 4. Tour in New York City 5. Earthquake Drill	〈Round 1 の内容〉 文字を使わずに、音声とピクチャーカードで教科書の全ユニットの内容を大まかに理解	ア 英語で説明されていることがおおまかに理解できる。 ア 先生や ALT の話した英文を理解することができる。 イ 質問されたことに適切な返答をする

6	6. Work Experience 7. Amazing Australia 8. Staging a Musical 前期中間テスト	する。	ことができる。						
		Round 2 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 2 の内容〉 教科書の文字を見てたくさん読む。音の記憶が残っているうちに教科書の英文をノートに書き写す。	ウ 制限時間内に教科書をたくさん読むなど、積極的に反復練習する。 ウ 正確に本文を書き写すことができる。 ア まとまった文量の英語を聞き取ったり読み取ったりできる。 イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。 ア 英語特有の発音、読み方に関する知識がある。						
		Round 3 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 3 の内容〉 穴あき音読などの活動で、本文を頭の中に残す。	イ 声量や身振りを工夫して相手に伝えることができる。 イ 自分の好きな物や人について相手に伝えることができる。 ア 先生や ALT の話した英文を理解することができる。 イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。						
		Round 4 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 4 の内容〉 教科書のイラストを見て、英語で説明する。自分の言葉で教科書のストーリーを仲間に伝える。教科書の表現で活用できるものはたくさん使う。	ウ イラストのことを積極的に伝えようとしている。 ア 自分の言葉を交えてイラストを説明できる。 ア 先生や ALT の話した英文を理解することができる。 イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。						
		3年ラウンド Round 1 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 1 の内容〉 文字を使わずに、音声とピックアップカードで教科書の全ユニットの内容を大まかに理解する。	ウ 授業での約束を守って学習に取り組むことができる。 イ パワーアップ自己紹介をすることができる。 ア 英語で説明されていることがおおまかに理解できる。 ア 先生や ALT の話した英文を理解することができる。 イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。						
7	7	9	10	11	12	1	2	3	
9	前期期末テスト	10	後期中間テスト	11	後期期末テスト	12	1	2	3

学習に対するワンポイントアドバイス

- とにかく授業が基本です。授業中は与えられた課題に集中して取り組みましょう。
- わからないことはすぐに友達や英語担当の先生に質問をしましょう。そのままにしないことが大切です。
- 授業のあとは必ず復習し、内容を確実に深めましょう。内容を考えながら音読練習をすると効果的です。

美術科を学ぼう



1. 美術科としての特色とは

たくさんの用具や素材を扱いながら、自分の思いを表現していく学習です。思いは人それぞれ違った形で表現されます。思いを表現するためには試行錯誤しながら多くのことを考えます。これらの活動を通して次の3点が美術科の教科性になっています。

- ① 美的、造形的表現・創造 ②文化・人間理解 ③心の教育

これら3点を押さえ、生徒の自己実現を図り、生涯にわたって美術を愛好していく心情とその資質や基礎的能力を育成することをめざしています。

2. 指導計画

(1) 週時間数 1・2・3年生 週1時間の授業 (ただし1年生はI期は週2時間。)

(2) 授業計画、内容

学年	学期	題材名	学習の内容
1	前 後	美術との出会い・・・オリエンテーション	美術との出会い・・・オリエンテーション 見つめると見えてくるもの・・・スケッチを勉強し、観察する姿勢や力を育てる。 文字っておもしろい・・・レタリングを学び、楽しい文字のデザインをする。(スケッチブック表紙) 折って、切って、巻いて・・・紙の加工法や技法を学び、紙を使ったデザインをする。 暮らしに息づく土の造形・・・陶土の感触を楽しみながら焼き物の持つ造形的な良さを味わい、成形から焼成までの制作行程を理解し、制作する。 自然の美しさから生まれた・・・身近な素材を試行合成し、自分の気持ちを投影した抽象画を制作する。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。
2	前 後	あなたの美を見つけて・・・オリエンテーション	あなたの美を見つけて・・・オリエンテーション 心のイメージを形に・・・モダンテクニックとデッサンを組み合わせ、心象風景を表現する。 視点の冒険・・・視点や構図を工夫して、個性的な風景画を制作する。 ジジジチカピカポッポッパ・・・光や影の特性を理解し、空間に与える印象を創作する照明器具を制作する。 季節を楽しむ心・・・日本の伝統的な表現方法や色彩を学び、季節感を取り入れた作品をデザインする。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。
3	前 後	学びの探求と未来・・・オリエンテーション	学びの探求と未来・・・オリエンテーション 仏像に宿る心・・・修学旅行前に仏像彫刻の良さや美しさを学ぶ。 今を生きる私へ・・・今の自分の内面を見つめ、自画像で表現する。 自分へ贈る卒業記念品・・・サンドブラストの手法を学習し、ガラス皿を制作する。 ルネサンスが目指したもの・・・ルネサンス期の美術について学び、良さや美しさを鑑賞する。 イメージを追い求めて・・・彫刻作品が持つ形や材料の特徴をとらえ、篆刻の印面ともち手を制作する。 どこまで修復すべきか・・・文化財を通して、美術文化の継承と創造について考える。 動きを生かして印象的に・・・伝達の意図を考え、動画でコマーシャルを制作する。 社会に生きる美術の力・・・3年間の美術の学習を振り返って、付いた力を感じ卒業後の見通しを持つ。

(3) 学習目標

第1学年 () 内は第2学年及び第3学年の学習内容を表しています。

- ① 楽しく(主体的に)美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てます。
- ② 対象を深く観察する力(深く見つめる力)、感性や想像力を高め(独創的・総合的な見方や考え方を培い)、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身につけ、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち(自分の表現方法を工夫し)、創意工夫し美しく表現する能力を育てます。
- ③ 自然や美術作品(文化遺産)などについての基礎的な理解や見方を広げ(心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち)、良さや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てます。

3. 美術の学習の仕方

(1) 1学年

美術表現に関する基礎知識と基本技術を習得し作品を制作する。また、美術作品の鑑賞の基礎を学ぶ。

(2) 2学年・3学年

多様な美術表現の技術を生かした作品を制作する。また、心の内面を見つめ、自分の思いを感性豊かな表現で作品制作を行う。多様な美術作品の見方を学ぶ。

4. 授業の受け方

表現や鑑賞の活動(授業)を通して、創造活動の喜びが味わえるように、自分の思いを大切に最後まで粘り強く、苦心しながら試行錯誤を繰り返して作品の完成をめざす。

5. 美術科の評価の観点・方法

(1) 評価の観点

知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度 の3観点で評価する。
(観点別学習状況の評価はA・B・C、評定は5段階で評価)

(2) 評価の方法 (それぞれの題材によって評価の方法は異なることがあります)

[知識・技能]

小テストや鑑賞、授業中の発表や制作の完成度、平面や立体での美術的な技能で評価します。

[思考力・判断力・表現力]

アイディアスケッチの様子、制作材料、用具、技法の工夫、授業中の制作の様子、途中や完成作品などから判断します。

[主体的に学習に取り組む態度]

制作への取り組み、完成作品の完成度、授業中の制作の様子や片付け、鑑賞での発表、プリントの内容などで評価します。

【音楽科】シラバス

1 【担当者】

1年～3年 亀山 広樹

2 【音楽科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。



各学年の目標

第1学年
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
第2学年及び第3学年
(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにし音楽に親しんでいく態度を養う。

3 【音楽科の評価の観点及び評価・評定の方法】

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性
観点項目	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたり、表現している。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・授業準備 ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト ・実技テスト
評価	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

※教科の目標に照らして、学期ごとに各観点到重みをつけて評定する場合があります。

4 【音楽科の学習のしかた】

中学校の音楽では、生涯を通して音楽を愛好し、音楽活動の楽しさや喜びを得て、豊かな情操を養うことを目指しています。授業の内容は、表現及び鑑賞の活動に分けられます。

表現の活動

- 歌 う こ と … 一人で歌う独唱、みんなで同じ旋律を歌う斉唱、各パートに分かれてハーモニーを作り合う合唱などを行います。
- 演奏すること… リコーダーを中心とした楽器や日本の楽器などを使って、ひとりで演奏したり、グループアンサンブルや合奏をしたりします。
- 創作すること… 簡単な節づくりや、和音づけをしたり、イメージしたことを自由に音で表現することなどを行います。

鑑賞の活動

- 聴 く こ と… すすんで音楽を聴いて、それぞれのよさや美しさを感じ取り様々な音楽に親しむ活動を行います。

- ・別府中学校では、クラスごとの混声合唱の発表の場として、毎年10月末～11月頃に合唱コンクールを行っていますので、前期後半は表現活動の中の歌うことが中心になります。
- ・ピアノを習うなど、以前から音楽にかかわっていると、楽譜を読む力や、楽器の演奏の取りかかりはよいですが、中学校の音楽の活動の中でどのように取り組んでいるかが一番大切です。自分の持てる力を精一杯発揮して一生懸命取り組めるといいですね。

5 【音楽科の授業で必要なもの】

- ・教科書（音楽・器楽） ・合唱曲集 ・ファイル ・筆記用具
- ・アルトリコーダー

6 【指導計画】

	1年 (45時間)	2年 (35時間)	3年 (35時間)
前 期	歌声をつくろう ・校歌 ・We'll Find The Way ・主人は冷たい土の中に ・エーデルワイス ・パフ 鑑賞 ・春 ・映画音楽から アルトリコーダーの基礎 ・リコーダー曲集より	歌声をみがこう ・夢の世界を ・翼をください ・夏の日の贈りもの ・サンタルチア 鑑賞 ・フーガ ト短調 ・交響曲第5番 (運命)	日本 & 世界の愛唱歌に親しもう ・花 ・花の街 ・早春賦 ・帰れソレントへ ・Amazing Grace 鑑賞 ・ブルタバ (モルダウ) ・バレエについて
	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本歌曲に親しもう ・赤とんぼ ・浜辺の歌 鑑賞 ・魔王 ・日本の伝統音楽 ・アジアの民族音楽 アルトリコーダーの基礎 リコーダーアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本の歌の美しさを味わおう ・夏の思い出 ・荒城の月 鑑賞 ・歌劇「アイダ」 ・歌舞伎「勘進帳」 ギターの基礎 ・ギター曲集より 送る会、卒業式の合唱曲	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 箏に親しもう ・さくらさくら 鑑賞 ・尺八曲 ・能 ・世界の諸民族の音楽 グループアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲
後 期			

第2学年 技術・家庭科(技術分野)シラバス

1 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習内容

題材名	題材目標	主な学習内容
電気エネルギーを変換して利用しよう	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで利用されているエネルギーのしくみの概要がわかる。 一次エネルギーと二次エネルギーの違いがわかる。 発電の簡単なしくみがわかる。 太陽光や水力、風力など自然界のエネルギーを利用するしくみがわかる。 交流電源や直流電源の特徴がわかる。 電気エネルギーがいろいろな変換を経て、光や熱、動力などのエネルギーの形で利用されていることがわかる。 電気エネルギーを4つの利用方法に分類できる。 簡単な電気回路がわかる。 製作に必要な電気の知識や電気回路、加工方法を調べることができる。 力を伝達する方法がわかる。 これからのエネルギー変換の技術 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換とその利用 身の回りで利用されているエネルギーとその分類 発電のしくみ 自然界のエネルギー エネルギーの種類と特徴 電気エネルギーの特徴 電気エネルギーの変換と力の伝達 基本的な電気回路 エネルギー変換を利用したものづくり 工作機器のしくみや保守 設計、部品加工、仕上げ エネルギー変換の技術の振り返り エネルギー変換の技術と私たちの未来
制作物をプレゼンしよう	<ul style="list-style-type: none"> 情報とコンピュータ 応用ソフトウェアを用いて基本的な情報処理ができる。 ネットワークのしくみがわかる。 インターネットにおけるルールやマナーについて理解し、正しく利用できる。 ネットワーク利用におけるルールやマナーについて理解し、正しく利用できる。 マルチメディアの特徴を理解し、活用できる。 デジタル機器を活用できる。 情報モラルの必要性について考える。 目的に応じたソフトウェアを選択し、活用できる。 作品について発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの構成 情報のデジタル化 アプリケーションソフトウェアのはたらき ネットワークの特徴と利用 情報モラル ネットワークの利用 マルチメディアの特徴と利用 デジタル機器の活用方法 個人情報の取り扱い方 応用ソフトウェアの活用方法 プレゼンテーションソフトの活用方法

3 評価の方法

- (1) 授業中の取り組み
- (2) 作業中の様子
- (3) 提出物
- (4) 定期テスト

	評価の観点	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を習得している。 すでに習得している知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で概念として理解したり、技能を習得したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト 知識や技能を用いた発表
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現等 ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組もうとしている。 粘り強い取組を行おうとしている。自らの学習を調整しようとしている。 ※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価をします 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやレポート 授業中の発言 教師による行動観察

4 授業や家庭学習について

- (1) 何事に関しても興味関心を持とう。
- (2) グループの中で積極的に発言・行動し、活発な授業を行おう。

技術・家庭科(家庭分野)シラバス

1【担当者】植田君恵

2【技術・家庭科の目標】

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術の関わりについて理解を深め進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。

3【家庭分野の目標】

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

4【家庭分野の領域】

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

5【家庭分野の評価の観点の目標と評価の方法】

観点	観点の目標	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている	定期テスト 単元テスト 実技テスト 製作物の提出 実習の様子等
思考力・判断力・表現力	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている	ノート、レポート等の提出物 授業中の発言等
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている	授業中の発言、態度 ノート、レポート等の提出物等

6【評定】

上記3観点の観点別学習状況の評価をA・B・C基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

学習したことを家庭で実践する機会があると生活の技術が向上します。
お手伝いは学習したことを家庭で実践する良い機会です。始めからうまくはできませんが、努力を褒めて、励まして下さい。生活の技能が向上し、自立を促します。

【保健体育科】シラバス 2年

1 【担当者】 目黒 拓 石川美穂

2 【保健体育科の目標】

- ① 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

3 【保健体育科の評価観点と評価の方法】

		評 価 方 法
知識及び技能	① 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方を知っている。 ② 各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法について理解できている。 ③ 運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方についての考えを理解できている。 ④ 各領域の運動の特性に応じた基本的な技能が身に付いている。保健分野について個人生活を中心として科学的に理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。	・提出物では、学習ノート、学習カードなど ・定期テスト ・学習ノート ・学習カード ・技能テスト ・試合、発表会 ・教師による観察
思 判 表	① 自己やチームの課題を発見し、課題解決に向けて運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できる。 ② 自己の考えや仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	・学習ノート ・学習カード ・教師による観察
学人び間に性向等かろう力	① 各単元に関心を持って、進んで取り組み、楽しもうとする。 ② 互いに協力し、練習や競技、試合、発表を行おうとする。 ③ 授業の約束や競技のルールを守り、「公正な態度」で活動することができる。 ④ 自分や仲間の健康や、活動場所・用具・服装の安全を確かめて活動しようとしている。	・教師による観察 ・試合、発表会 ・評価カード ・学習カード

A→「設定した評価規準」が十分に達成できる。

B→「設定した評価規準」がおおむね達成できる

C→「設定した評価規準」に対し、やや不十分である。

・ 評定のつけ方について

	知・技	思判表	学び	評定 5段階
観点別 評価	A	A	A	5
	・	・	・	4
	・	・	・	3
	・	・	・	2
	C	C	C	1

評定	評価の組み合わせ
5	AAA
4	AAB
3	ABB ABC ACC BBB BBC
2	BCC
1	CCC

4 【保健体育科学習の約束】

①チャイムまでに、指定の場所に集合する。

②服装をしっかりと整える。（体育着は、ハーフパンツの中に入れる。髪の毛が長い人はゴムで縛る。）

③忘れ物をしない。（ハチマキ・教科書・実技の本・ファイル・保健学習ノート・筆記用具など）

④号令に合わせ、大きな声で元気にあいさつをする。

⑤やむをえず、見学の際は、親の承認を必ず見せること。

（やりとり帳、またはメモ用紙等を書いてくる。）

※見学でもカードの記入・用具の準備や片づけ・その他やれる手伝いを進んでやること。

※ジャージは11月～3月まで着用可。それ以外は、教室で脱いで学習の場に行くこと。

5 【学習内容とねらい】

運動領域	種目	学習のねらい
体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めたりします。
陸上競技	短距離走・リレー	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
ダンス	創作ダンス	リズムに乗って体を動かしたり、感じを込めて踊ったりするとともに、作品の発表や鑑賞ができるようにします。
球技Ⅰ・Ⅱ	バレーボール ハンドボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
器械運動	跳び箱	自分の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにします。
武道	柔道	礼儀作法や、基本技を覚え、お互いに協力して基本練習ができるようにします。
陸上競技	長距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
球技Ⅲ	サッカー バスケットボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、工夫してゲームができるようにします。
保健		「健康な生活と病気の予防」「傷害の防止」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。
体育理論		「スポーツの意義や効果と学び方」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。

第2学年「道徳」シラバス

- 1 【担当者】 各学年担当を原則とする。
- 2 【道徳教育とは】 人間が本来持っているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動
- 3 【道徳の目標】 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、学校の教育活動全体を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこと
- 4 【指導場面】 道徳の時間（週1時間）をはじめ各教科、総合的な時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行う。
- 5 【道徳の時間における指導内容】 *道徳は、年間を通して文章による評価があります。
 - A 主として自分自身に関すること
 - (1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと
 - (2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする
 - (3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること
 - (4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること
 - (5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること
 - B 主として人との関わりに関すること
 - (6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること
 - (7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること
 - (8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと
 - (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと
 - C 主として集団や社会との関わりに関すること
 - (10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること
 - (11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること
 - (12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること
 - (13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること
 - (14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと
 - (15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること
 - (16) 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること
 - (17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること
 - (18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること
 - D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 - (19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること
 - (20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること
 - (21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること
 - (22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見いだすこと
- 6 【使用教材】 新しい道徳2（東京書籍） 彩の国の道徳 『自分を見つめて』、『心の絆』、『未来に生きる』
（埼玉県教育委員会） 道徳ポートフォリオ

主題名一覧表(第2学年)

※郷土・偉人教材は、学年の実態に応じ、内容項目の近い主題と入れ替え、指導する。

学期	月	週	主題名	内容項目	教材名	出典
前期	4	2	良好な関係を目指して	B(7)礼儀	あいさつ	新しい道徳 東京書籍
		3	より良い社会を目指して	C(12)社会参画, 公共の精神	住みよい社会に	新しい道徳 東京書籍
		4	歩調を合わせて	B(9)相互理解, 寛容	遺足で学んだこと	新しい道徳 東京書籍
	5	2	いじめのない世界へ	C(11)公正, 公平, 社会正義	私のせいじゃない	新しい道徳 東京書籍
		3	いじめのない世界へ	A(1)自主, 自律, 自由と責任	あの子のランドセル	新しい道徳 東京書籍
		4	誠意をもって	A(1)自主, 自律, 自由と責任	金語楼さんのこと	新しい道徳 東京書籍
	6	1	本当の友情とは	B(8)友情, 信頼	みんなとんだ!	新しい道徳 東京書籍
		2	「今」を生きる私のために	A(3)向上心, 個性の伸長	私は十四歳	新しい道徳 東京書籍
		3	思いを形に	C(14)家族愛, 家庭生活の充実	ごめんね, おばあちゃん	新しい道徳 東京書籍
		4	「和食」の良さってなんだろう	C(17)我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	心でいただく伝統の味	新しい道徳 東京書籍
	7	1	支え合いの中で	B(6)思いやり, 感謝	愛	新しい道徳 東京書籍
		2	郷土の魅力にふれて	C(16)郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	祭りの夜	新しい道徳 東京書籍
	9	1	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	奇跡の一週間	新しい道徳 東京書籍
		2	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	妹に	新しい道徳 東京書籍
		3	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	三つのいのちについて考える	新しい道徳 東京書籍
		4	よりよい社会のために	C(10)遵法精神, 公德心	宝塚方面行—西宮北口駅	新しい道徳 東京書籍
	10	1	気持ちを整えて	A(2)節度, 節制	白ご飯を目指して—萩野公介	新しい道徳 東京書籍
		2	気持ちを整えて	A(2)節度, 節制	不安な気持ちを整えてみよう	新しい道徳 東京書籍
		3	友の幸せを願う	B(8)友情, 信頼	最後の思い出	彩の国道徳 未来に生きる
		4	誇りを胸に	C(15)よりよい学校生活, 集団生活の充実	四十七年に感謝をこめて	新しい道徳 東京書籍
	11	1	おおらかな気持ちで	B(9)相互理解, 寛容	「注文をまちがえる料理店」	新しい道徳 東京書籍
		2	垣根をこえて	C(18)国際理解, 国際貢献	六千人の命のピザ	新しい道徳 東京書籍
		3	自然環境に優しく	D(20)自然愛護	冬の使者「マガン」	新しい道徳 東京書籍
		4	たがいに支え合う社会	C(12)社会参画, 公共の精神	今度は私の番だ	新しい道徳 東京書籍
	12	1	正義を追い求めて	C(11)公正, 公平, 社会正義	渡良瀬川の鮎毒	新しい道徳 東京書籍
		2	敬意をもって自然と接する	D(21)感動, 畏敬の念	夜は人間以外のものの時間	新しい道徳 東京書籍
		3	自分を信じて生きるとは	D(22)よりよく生きる喜び	自分を信じて生きるとは	新しい道徳 東京書籍
	1	2	自分を信じて生きるとは	D(22)よりよく生きる喜び	本当の私	新しい道徳 東京書籍
		3	勤労から得られるものとは	C(13)勤労	我、ここに生きる	新しい道徳 東京書籍
		4	仕事を選ぶとき	C(13)勤労	宇宙人	新しい道徳 東京書籍
1		あきらめない気持ちで	A(4)希望と勇気, 克己と強い意志	左手でつかんだ音楽	新しい道徳 東京書籍	
2	2	伝統文化を継承し発展させていくために	C(17)我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	書道パフォーマンスの挑戦	新しい道徳 東京書籍	
	3	真実を求め続けて	A(5)真理の探究, 創造	赤土の中の真実	新しい道徳 東京書籍	
3	1	気持ちをこめて	B(6)思いやり, 感謝	心に寄りそう	新しい道徳 東京書籍	
	2	正しい判断とは	C(10)遵法精神, 公德心	「いいね」のために?	新しい道徳 東京書籍	
郷土・偉人教材			規律ある態度	A(2)節度, 節制	父の一言	彩の国の道徳 『自分をみつめて』1
			責任感の強い人間	A(1)自主, 自律, 自由と責任	私たちの初詣	彩の国の道徳 『自分をみつめて』15
			きまりやルールを守る一貫した法の精神と人権感覚	C(10)遵法精神, 公德心	上級学校を訪ねて	彩の国の道徳 『自分をみつめて』18
			公平な社会へ—人権感覚を磨く時—	C(11)公正, 公平, 社会正義	最初の公認女性医師	彩の国の道徳 『自分をみつめて』21
			働くとはどのようなことなのか、奉仕とはどのような活動か	C(13)勤労	ぼくの職場体験活動	彩の国の道徳 『自分をみつめて』23

令和6年度特別活動シラバス

1. 全体統括 上原 涼也

2. 特別活動とは

学級活動、生徒会活動、学校行事の3つで構成されている。これらの活動を通して、好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、所属する集団の向上に努めようとする態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力や態度などを養う教育活動のことを指す。

3. 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

4. 学級活動の目標と内容

目標 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学級活動の3つの内容

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

ねらい

学級活動は、各学級を単位として、学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資することをねらいとする。

学級活動とは

- (1) 学級を単位として行われる生徒の自主的、実践的な活動である。
- (2) 学級を場として、学級や学校の生活への適応を図る活動である。
- (3) 学級生活を基盤に、集団や社会の一員としての望ましい資質や能力・態度を育てる活動である。
- (4) 当面する諸課題の解決を通して生徒自らが自己指導能力を養う活動である。
- (5) 特別活動における人間としての生き方に関する指導が行われる中心的な活動の場である。

2年生の学習内容

		活動計画	ねらい	
前 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の抱負を考えよう ・学級目標をつくろう ・学級組織をつくり、係等を決定しよう 	適応と成長及び健康安全 学級や学校の生活づくり "	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生としての学習の心<small>こころがま</small>構えについて考えよう ・長瀨自然体験教室に向け準備をしよう 	学業と進路 学級や学校の生活づくり	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会に積極的に参加しよう ・学級や学年の諸問題を解決しよう ・思春期の心と体の健康について考えよう 	学級や学校の生活づくり 適応と成長及び健康安全	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した夏休みにしよう ・先輩の生き方に学ぼう 	適応と成長及び健康安全 学業と進路	
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの力で体育祭を成功させよう ・学級生活をより充実させよう 	学級や学校の生活づくり "	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの力で体育祭を成功させよう ・自己の生き方について考えよう ・友達のよさを知ろう ・学習上の問題点や悩みを解決しよう ・前期の学級生活を振り返ろう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路 適応と成長及び健康安全 学業と進路 学級や学校の生活づくり	
	後 期	10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の学級組織を作ろう ・後期の生活を考えよう 	学級や学校の生活づくり "
		11	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会について考えよう ・進路計画を検討しよう ・上級学校調べをしよう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路 "
		12	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用などの害について学ぼう ・働くことと生きがいについて考えよう 	適応と成長及び健康安全 学業と進路
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校調べの発表会を開こう ・心の健康について学ぼう 	学業と進路 適応と成長及び健康安全
2 3		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢や生き方について語り合おう ・後期の学級生活を振り返ろう 	学業と進路 学級や学校の生活づくり	

2年テーマ「地域・進路」(70時間)

		単元	○学習活動 ・具体的な活動例	教師の支援・指導上の留意点
4	32	オリエンテーション 長滞の自然に学ぼう	○オリエンテーション ・総合的な学習の時間のねらい、今年度の学習内容、学習方法等について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全生徒を対象に第2学年の総合的な学習の時間の進め方を説明し、1年間の学習の見通しを立てさせる。 ・テーマ設定について、神川林間の経験をもとに、過去の事例や資料も提供し、生徒の視野を広げる。 ・情報の収集の仕方を例示する。 ・情報を比較・分類・関連づける活動に取り組み、思考の場面を設定する。 ・自分のことばでまとめられるようにさせる。
5			○NIEに取り組む(通年) ・文を読む力、書く力を養う。 ・世の中のことを知る。 ・情報を集める、まとめる、提示する力を養う。 ・聞く人に分かりやすく説明する、発表する力を養う。	
6			○長滞の自然から学ぶ 【課題の設定】 ・長滞自然体験の事前学習を通して研究テーマを設定する。 ・グループの作成 ・計画書の作成・提出	
7			【情報の収集】 ・参考文献等で調べ学習 ・現地調査や実習を行う。 【整理分析】 ・学習を振り返り、資料の整理と分析を行う。 【まとめ・表現】 ・新聞にまとめ、発表会を行う。	
9	20	働く意義について考えよう	○働く意義について、職場体験を通して自分なりの考えを持つ 【職業アンケート】 ・身近な大人に職業についてやりがいなどについてアンケートをおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを実施し、生徒の興味関心に基づいてテーマを選択させる。 ・保護者や先生など身近な働く大人にインタビューして仕事に就くことになったきっかけや働く意義について尋ねることで考えを深めさせる。 ・興味関心のある職業に就いて図書室やインターネット、インタビューなどから新聞形式にまとめさせ、掲示発表を行う。 ・生徒が協働的に、学校内外の人たちの力を借りながら活動することを重視する。 ・電話のかけ方、お礼の手紙の書き方などを指導する。 ・情報を比較・分類・関連づける活動に取り組み、思考の場面を設定する。 ・発表の方法、話し方、伝え方の工夫とともに、学び方、考え方の共有化を図る。 ・互いの研究を評価しあう場を設定する。
10			【職業調べ】 ・自分が興味関心のある職業について調べ、レポート(「○○になるには新聞」)にまとめて発表する。	
11			【職場体験】 ・体験する職種、職場について調べる。 ・打合せのアポイントを取る。 ・事前打ち合わせの方法を学び、行う。 ・職場体験を行う。(3日間)	
12			・レポート(グループごとにパ ・お礼状の書き方を学び、お礼状を書く。 ・体験の内容や感じたこと、考えたことをワーポイントでまとめる)にまとめ、発表する。 【働く意義について考える】 ・働く意義について自分の言葉でまとめ、掲示発表する。	
1	8	古の歌人に学ぼう	○百人一首に親しむ ・百人一首について知る。(歴史、和歌の知識、競技方法) ・百人一首の競技(源平合戦)を体験する。 ・百人一首にならい、和歌をつくる。 ・学年で百人一首大会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語便覧や、プリント等で歴史、競技の方法を教え、興味関心を持たせる。 ・百人一首大会を目指し、何度か競技を行い、和歌に関する関心を深め制作につなげる。
2	10	上級学校について学ぼう	○上級学校調べ ・上級学校説明会に参加し、関心のある上級学校について詳しく調べる。 ・上級学校についてレポートをまとめ、他の学校を調べた生徒とグループを作り報告会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の時の職業調べと2年生での職場体験をもとに、自分の将来像を想定して上級学校を調査する。 ・個人でレポートにまとめ、3年生の進路選択につながるようにする。
3				

別府中 当たり前の20ヶ条

- 1 あいさつは 先にするのが 当たり前
- 2 時間は 守って生活するのが 当たり前
- 3 授業中は 真剣に受けるのが 当たり前
- 4 清掃は きれいに終了するのが 当たり前
- 5 食事は きれいに食べるのが 当たり前
- 6 服装は 正しく着るのが 当たり前
- 7 約束は 守って行動するのが 当たり前
- 8 間違いは すぐに訂正するのが 当たり前
- 9 ありがとう・ごめんなさいを 素直に言えるのが 当たり前
- 10 友だちは 大切にするのが 当たり前
- 11 朝ご飯は しっかり食べるのが 当たり前
- 12 呼ばれたら 「はい」と返事が 当たり前
- 13 部活動 がんばることが 当たり前
- 14 困っていたら 優しくするのが 当たり前
- 15 悪いこと 悪いと言えるのが 当たり前
- 16 良いことは 進んでやるのが 当たり前
- 17 持ち物は 必ず確認するのが 当たり前
- 18 悩んだら 人に相談するのが 当たり前
- 19 いじめは 絶対しないぞ 当たり前
- 20 嫌なこと 誰もが同じだ 当たり前



